

ワークショップ「水難救助」WS1-6 沖縄県の再圧治療体制の現状と地域に根差した HBO ネットワークの構築

向畑恭子¹⁾ 赤嶺史郎¹⁾ 清水徹郎²⁾

[1) 医療法人徳洲会 南部徳洲会病院 臨床工学部
2) 医療法人徳洲会 南部徳洲会病院 高気圧酸素治療部]

【はじめに】

沖縄県は、ダイビングなどのマリンスポーツが盛んで、減圧障害の発生も多いとされ、24時間365日、速やかな対応が求められている。対応すべきエリアは広域だが、治療装置は沖縄本島中部以南に集中しており、治療装置が無い離島も多いのが現状である。

【沖縄県の再圧治療】

当院における7年間（2018年4月～2025年3月）の高気圧酸素治療（HBO）の年間施行件数の平均は、2,200件あまりで、難治性潰瘍を伴う末梢循環障害や骨髄炎が多かった。その中で再圧治療は310件（140名）で、新規導入患者数が近年増加しており、2024年度は疾患別導入患者数第2位だった。

再圧治療の現状として患者現住所は、沖縄本島および近隣離島在住者が62%で、その他は九州以北の短期滞在者だった。潜水目的では、ファンダイバーが58%、プロダイバーと漁師がそれぞれ21%だった。また、患者の70%がおよそ24時間以内に治療を開始していた。来院方法では、自力での来院が多いが、この中には自家用車やタクシーでの来院のほか、離島から船舶や民間航空機を利用したのちにタクシーでの来院なども含まれる。そのほか救急車や他施設からの紹介搬送や、12件のヘリ搬送があった。初回治療の開始時間は53%が夜勤帯で、プロトコールは97%がU.S.Navy Table-6（Full Extension：13件を含む）だった。再圧治療は治療時間が長時間におよぶため、日勤帯に開始しても夜勤帯での対応が多くなっている。夜勤帯導入患者や、短期滞在者は入院となることが多く、専門医によるムンテラには、帰宅時期や帰宅方法（飛行機搭乗、海路&陸路での帰宅）、潜水復帰時期等の指導も含まれる。また、短期滞在者で、残存症状がある場合は、帰宅後に対応できる施設を紹介しての退院となる。

【HBO ネットワーク】

地域連携室が窓口となって毎年行われている、在沖米国海軍病院の施設見学や海上自衛隊沖縄基地隊・沖縄水中処分隊の施設見学、職業潜水士の耐圧能力・酸素耐性試験のほか、県内臨床工学技士養成校におけるHBOの授業や徳洲会グループHBO部会等の活動も、当院独自のネットワークの構築につながると考えており、その1つ1つの継続が

大切である。HBOオペレーターネットワークは、県の臨床工学技士会の活動が基盤となりすすめられているもので、その一環として離島を含めた沖縄県7施設の使用装置や加圧方式、専門医や専門技師の有無、各施設の問題点などを問うアンケートを行っているが、沖縄県HBO施設の状況を把握し、その特徴を共有することができているのではないかと考えており、今後も継続していきたい。

【まとめ】

再圧治療は減圧障害の第一選択ともいえる治療であり、早急に対応すべき疾患である。今後も24時間365日、第1種装置と第2種装置を保有する利点を生かして、地域の医療連携の中核を担う施設になれるよう尽力していきたい。